

第55号 (2023-12月発行)

根郷

寿だより



発行 佐倉市立根郷公民館

〒285-0815 佐倉市城 343-5

☎ 043-486-3147 FAX 043-486-3686

E-mail negou-public@city.sakura.lg.jp

編集 根郷寿大学・根郷寿だより編集委員会

ノーサイド

根郷寿大学運営委員会会長 渡部 敏夫

人には、誰もが知らない唯一の過去、歴史があるのです。そんな自分の過去、歴史を披露することにしましょう。

私は、幼ない頃から父、母にほとんど怒られたことがない。とっても良い子だったんですよ。と、言うことは、本当は怒られたことがあったんですよ。たった一度だけだね。

父は、警察官僚でしたが、私が小学生の五年生の頃かな。なぜか警察を退職したのです。昭和三十三年頃の話でした。父も母も私達子供には、何も詳細を話してくれませんでした。父は、地元の信望が厚かったのでしょう。その後、江戸川区議となり、約二十余年に亘り務めてきました。

私は、何不自由なしに青春を過ごしてきました。父は、下手の横好きと言えるのか、パチンコ、麻雀が好きでした。ヘボでしたけど。パチンコでは、たまにバナナとか缶詰とかを景品でもらってきました。が、私は三人兄妹の真ん中でしたので、一番大きなバナナを食べたことはありませんでした。「今日は上から」とか「今日は下から」とか。だから真ん中の私は、一番大きなバナナを食べたことがなかったのです。話しを元に戻そう。

私は、子供の頃に家庭麻雀で覚えたのですが、その腕は、大学だけでなく、私生活でもすごく役に立ったものです。大学生時代は「雀士、渡部」と呼ばれる位強かったのです。

父は他人との交流に時折り麻雀をしていましたが、メンバーが足りている時はともかく、数が足りない時はしばしば私が駆り出されていました。父は普段、二勝八敗ペース、私は八勝二敗ペースでしたので、父の穴埋め係の役割でした。

ある晩、人手が足りずに私がメンバーに加わることになりましたが、その日はどうにもツキにも恵まれずに、父ともども大負けしてしまいました。当然、私は不機嫌極まりない態度が出てしまったのです。夜中にゲームが終了し、お客様を見送ったのですが、何とニコヤカだった父の態度が一変。「敏夫、そこに座れ。今日の態度は何だ。くやしい気持ちは分かるけど、しかし、勝った相手の身になってみろ」と怒られたのです。負けた時の態度が大切なんだな。

私にとってみれば、父はいつも負けていても、なぜニコニコしているのか理解できなかったけど、好きだったんだね。

勝った人達はさぞかし機嫌が良かったことでしょう。でも負けた人達の態度次第では、その喜びも半減してしまったことでしょう。私は、その日のことは生涯忘れることので

きない日となりました。

勝っても我が身を抑え、負けた時はくやしいけど相手をたたえることを忘れてはいけない。それが「ノーサイド」だから。

空き家の増加に思う事

八班 山田 礼子

我が家では、主人の母を田舎から引き取るタイミングで、両親の家は空家になりました。その後、ご近所への迷惑や安全を考え、家の建物以外を更地にする工事を行ないました。そして近年になり家の取り壊しか現存売却かを考えていた矢先、家を借りたいという若夫婦に出逢いました。今は借家としてその家に住んで頂いています。

近年、人口の高齢化や家族形態の変化により空き家の増加が大きな問題になっています。国の定めたガイドラインでは「空き家」とは建物が一年間に亘って使われていない家とされています。2013年総務省の調査によると、全国の空き家数は820万戸。全住宅の7戸に1戸。2023年民間調査会社の予測調査では、2150万戸。全住宅の3戸に1戸が空き家という結果が出ています。実に驚くべき数字であると思います。団塊世代の相続が進み、空き家が急速に増え続けているのです。

空き家の所有者自身が空き家の管理や活用に問題を抱えている現実があります。自身での管理が難しい場合は代行業者に依頼する方法もあります。しかし、空き家の数や現況を考えれば、到底その対策では追い付きません。平成27年より空き家対策推進に関する特別措置法が施行され相談体制の整備や対応が進められています。それらの相談窓口の利用を積極的に利用するのも大切です。

自分が長年に亘り、住み慣れ親しんできた家、人生の大切な時間を家族と過した家。だからこそ、その行く末を真剣に考えて決断する事、そのために準備を進め考える事が大切だと思います。今、自分にできる事、やるべき事を先延ばしせず、真剣に考えてみましょう。

うちのニャンズ

一班 菊地 洋子

とがった顔に不釣り合いなデカ目、両目頭にブチ、目ヤニがついているかどうか分かりやしない。口元にもブチ、ハスキーな鳴き声、胴体の割に長い手足。7月3日、近所の学校の体育館に迷い込んだ子猫です。第1発見者は飼ってあげたいけど無理という事で、これも何かのご縁と後先考えず抱いて我が家へ。とりあえずダンボールに入れたら脱走、脱走大わらわ。翌日早速、動物病院へ。推定1ヶ月半というので誕生日は5月15日と決めました。お腹がツルつとしてたから女の子かと思ったら、猫はチンチン隠れてるとかで男の子でした。知らなかったです。体重1ポンド以下、やせすぎ、色々検査してワクチン日程決め、まだ先輩猫とは一緒にしちゃダメなのでケージと子猫用エサを購入しました。

あっ、名前は卯朶（ウタ）としました。うちの先輩猫は娘が会社の駐車場で拾ってきたのですが、申年だったんで美猿（ミエン）。過去のワンコもニャンコも干支付きです。今年卯年故のネーミングです。複数飼いの人曰く「そのうち慣れる、らしいですが、今だわがまま娘と大暴れ太郎は大運動会です。今の時代、保護猫活動TNR（*）も含めて精力的に頑張っている人達、今ある命という事で夜中にそお〜と野良猫にエサを置く人、色んな方法で猫に関わっている人がいると感じます。

我が家は2匹の安住を確保し、ちょっと癒される事にします。ブチもチャームポイント。ハスキーな鳴き声は母さん探して鳴き続けたから、手足が長いのは大きくなる証拠です。ペットボトルのキャップ1つあれば、しばらく遊んでいる様はまじ可愛いです。卯朶のファンはたまにポストに美味しいご飯差し入れてくれます。

そういえば、こないだは消防署の人が水路に落ちた子猫レスキューしてました。あのニャンコもどこかで誰かを癒し幸せになってるですね。きっと。

(*) TNR・・・Trap (トラップ) 捕獲すること、Neuter (ニュートター) 不妊手術のこと、Return (リターン) 猫を元の場所に戻すことの略してそれぞれの頭文字を取ったもの。

出典：公益財団法人どうぶつ基金から

私の「チャリオくん」

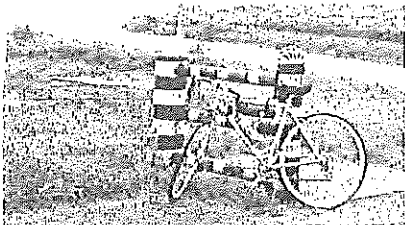
三班 犬丸 俊博

今、私の好きなテレビ番組に「こころ旅」(12月まではBSプレミアム、BS4K)というのがあります。俳優：火野正平氏が視聴者から寄せられる便りをもとに、自転車で全国を巡るといいますが、「何気ない風景」「思い出の風景」「忘れられない場所・風景」など視聴者のエピソードを紹介し、火野氏の手紙を読む姿、スタッフや地元の人々との会話に「ほっこり」とさせられる番組です。極度の高所恐怖症、上り坂で息を切らせながら懸命に自転車を漕ぐ火野氏やスタッフの皆さんと「チャリオくん」と呼ぶ火野氏のロードバイク。特に、下り坂で「人生、下り坂！最高！！」と叫ぶ火野氏の叫びに、つつい笑いが止まりません。

この秋は「2003秋の旅」と題して、北海道をスタートし青森、岩手など全部で7道県を巡り最終目的地は福岡。福岡と言えば私の故郷、・・・そう言えば私の「こころに残る風景」というと何になるのかな？

色々、思い起こして見るとそれは私が生まれ、17歳まで過ごした志賀町大岳(現在は福岡市東区大岳)という場所かな。「その頃、その日」は、父の仕事の関係で父と姉は筑豊の方へ、高校に通う私の面倒を見るため母は私と大岳に残って家族は離れて生活をしていました。地元民に取っての念願であった福岡市と筑豊地区を結ぶ「篠栗線」延線工事が完了し、営業開始が決まったため、高校通学が可能となりました。父母や姉に取っては家族一緒に過ごせることで希望に満ちた「引っ越し当日」。一方私に取っては、一緒に遊んだ友人、海、山や学び舎との別れです。引っ越しの荷物を出し終えた昼過ぎ、一人で自宅近くにある大嶽神社への参道を一步一步階段を踏みしめる様に登りました。山の頂きにある神社からは360度の展望。北は玄界灘、南は博多湾の海の輝き、東は米軍基地の通信鉄塔群(今ではゴルフ場が変わっているとのこと)、西は志賀島とそれに通じる白砂。登って来た神社への階段は中学校のクラブ活動で、仲間と競争して駆け上がった難所。眩しい日差しの中での神社境内での休息や夢を語り合った友人。どれもこれも思い出の数々です。まるでタイムカプセルを神社の境内に納めに来たのかなと思うほど、時間の過ぎるのが名残惜しい気がしました。いつかこのタイムカプセルを取り戻って来たいなど思っていたはいましたが、未だにその機会は訪れていません。

写真：5年前(印西市和田)



さて、「こころ旅」の火野氏と同じように高所恐怖症でもある私は、ずっと前に娘がプレゼントしてくれたロードバイクに乗っていましたが病の後遺症で私の「チャリオくん」には乗る事が不安な状態となってしまいました。同放送を視聴しながら、リハビリを頑張り、いつかもう一度ロードバイクに乗って利根川沿いの自転車道路を駆け抜けて見たいと思っています。そしてゆっくりでも構わないので、あの「神社への階段」を自分の足で登って、そしてタイムカプセルを探したいと思っています。

小さなボランティア

三班 並木 のり子

私の住んでいる六崎、家の前には田園地帯、そしてJRの列車の往来がよく見える「の

どかな、地に住んで四十七年。駅から徒歩で15分位、便利の良さ(?)からか最近の住宅事情相続税対策の為か新築住宅やアパートが次々と建てられています。

写真:六崎から佐倉駅方面を望む



それに反して、田んぼは耕作する人が高齢となり、又後継者も耕作しないという状況の中から荒地が多くなってきています。あの美しかった春から夏にかけての緑の絨毯、秋の黄金の絨毯を見ることが最近少なくなりさびしい限りですが、このような自然環境の中、早朝や夕方にはウォーキングする方が大勢おられます。日々、毎日の過ごし方を考える時、第一に健康で過ごし自分の足でいつまでも歩ける様にと、私もウォーキングを始めたところ、道路には沢山のゴミが落ちていたのが目に付きました。田んぼの道路の端やU字溝の中などに捨ててあるゴミ。ゴミの中には袋のままのゴミなど「なんでこんな所に」と叫びたくなる程です。空缶(ビール、コーヒーなど)、ペットボトル(中身の入っているものもあり)、タバコの吸い殻(ポイ捨て)、マスクなどなんとマナー違反者が多いのかと腹が立つことがたびたびでした。こんな状況の中、毎日ウォーキングして、少しでもきれいに気持ちよく歩けたらの思いから、私の地域のウォーキングウーマンに、「ゴミ拾いをしよう」と「何か地域に役立つことをしよう」と声をかけた所、六名の方々(根郷寿大学のメンバー)が賛同してくれて、毎月第二火曜日に「ゴミ拾い隊」として活動しています。今年で三年となりますが、地域の人からはご苦労様、車を運転している方からは頭を下げての感謝の声や気持ちを頂き、私達の励みになっております。

季節によって捨てられているゴミは様々です。夏はビール缶やペットボトル、冬はコーヒー缶やドリンク剤の瓶、コロナの時には「マスク」、たばこの吸い殻は年中ありますね。

区長さんにも話をし、ゴミの袋は区より提供して頂き「六崎をきれいにしよう」をモットーに頑張って、これからもこの活動を続けて行く積もりでおります。又ゴミ拾い活動の後の小休憩も楽しみの一つで、地域のこと、今話題となっていることやこれから先の「若い」のことなどお茶を飲みながら情報交換の場となっています。

皆さんと話しをすることで、今まで自分が気がつかなかったことなどの新しい発見があり、話題の尽きない「ひととき」となっています。これもボケ防止の一つ(?)かなと思います。

私達のボランティア活動は本当に小さな小さな活動の一つです。是非皆さんも住んでいる地域で役に立つ何かをみつけて小さなボランティアをしてみても如何でしょうか?

編集後記

次号は根郷寿大学閉講式のある3月に発行の予定です。月日の経つのは早いもので、やっと名前と顔を覚えたと思ったら閉講式を迎えることとなります。今年、自分自身に起きた事、根郷寿大学での班活動や講義内容について、あるいは「若かりし頃」の自分に向かって言いたい事など、色々な角度からの楽しい投稿を待っています。いえいえ、もっと気楽に投稿して下さい。当「根郷寿だより」は掲載ハードルを低くするように務めています。友人にメモを渡す位の気持ちで!! なお、次号(56号)への投稿期限は1月末とさせていただきますが、ご投稿は①根郷公民館事務室への持参、②郵送(〒285-0815 佐倉市城343-5 根郷公民館)宛、③電子メール(☐negou-public@city.sakura.lg.jp 宛)の何れかの方法にてお願いします。皆様の積極的なご投稿を期待しております。

以上 犬丸 俊博(記)